

建築人

2024

2

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.716





建築人

2024.02 No.716

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「外のない家」2022年

第66回 大阪建築コンクール渡辺節賞 受賞作品

設計：一級建築士事務所 nua

施工：岩鶴工務店

撮影：小川重雄

夫婦のための住宅である。通り庭のような吹抜け状の動線空間を挿入し、動線上にパブリック～プライベートへと、系列的に室を配置している。動線空間の日々刻々と変容する風景と、どこか住宅離れたスケールの横断が「外のない家」での暮らしを豊かにしている。

2 大阪こちエエ

4 Gallery 建築作品紹介

「AQUA西本町」

設計：大林組大阪本店一級建築士事務所

施工：大林組

「けやき通りの家」

設計：大西憲司設計工房

施工：ヒロタ建設

「和泉の家」

設計：北條建築事務所

施工：矢羽田工務店

8 動静レポート

9 Topics

10 Information

12 Close-up Osaka

14 記憶の建築

「八ヶ岳高原音楽堂」1988年

自然に抱かれた森の中の音楽堂 / 松隈 洋

大阪こちエエ

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

今年の正月は、稀にみる波乱の幕開けであった。元日に震度7を石川県能登半島の志賀町において記録し、多くの市民が被災した。現在の死者数は230人を超え、輪島市や珠洲市などは被災した避難者も多く、ライフラインの復旧には時間を要する状況で、未だ復興の道筋は示されていない。また2日には、日本航空と海上保安庁の航空機が衝突し、火災が発生する大事故により尊い命が失われた。亡くなられた方々にはご冥福をお祈りしたい。

今回は十日戎で有名な「堀川戎神社」を取り上げたい。場所は、大阪市北区の南森町駅の西北側に位置し、創建は6世紀中頃といわれ、蛭子（えびす）大神を祭神とし、「キタのえべっさん」と称され、ミナミの今宮戎神社とともに親しまれている。

毎年1月9日・10日・11日の「十日戎宝の市神事」には商売繁盛を願う参拝者が数十万人も訪れ賑わう。

今年は何を願うのか。皆で、商売繁盛と早期の震災復興を心から祈念したい。

建築人 No.716 2024年2月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：田鍋 稔

委員長：松下典央（編集人代表）

編集人：石上芳弘 梅田武宏 荻窪伸彦 河合哲夫
大松俊祐 橋本頼幸 北條豊和 牧野隆義
三谷勝章 武藤優哉 村上栄司 茂龍一之
山本恭史

事務局：隅原正太 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

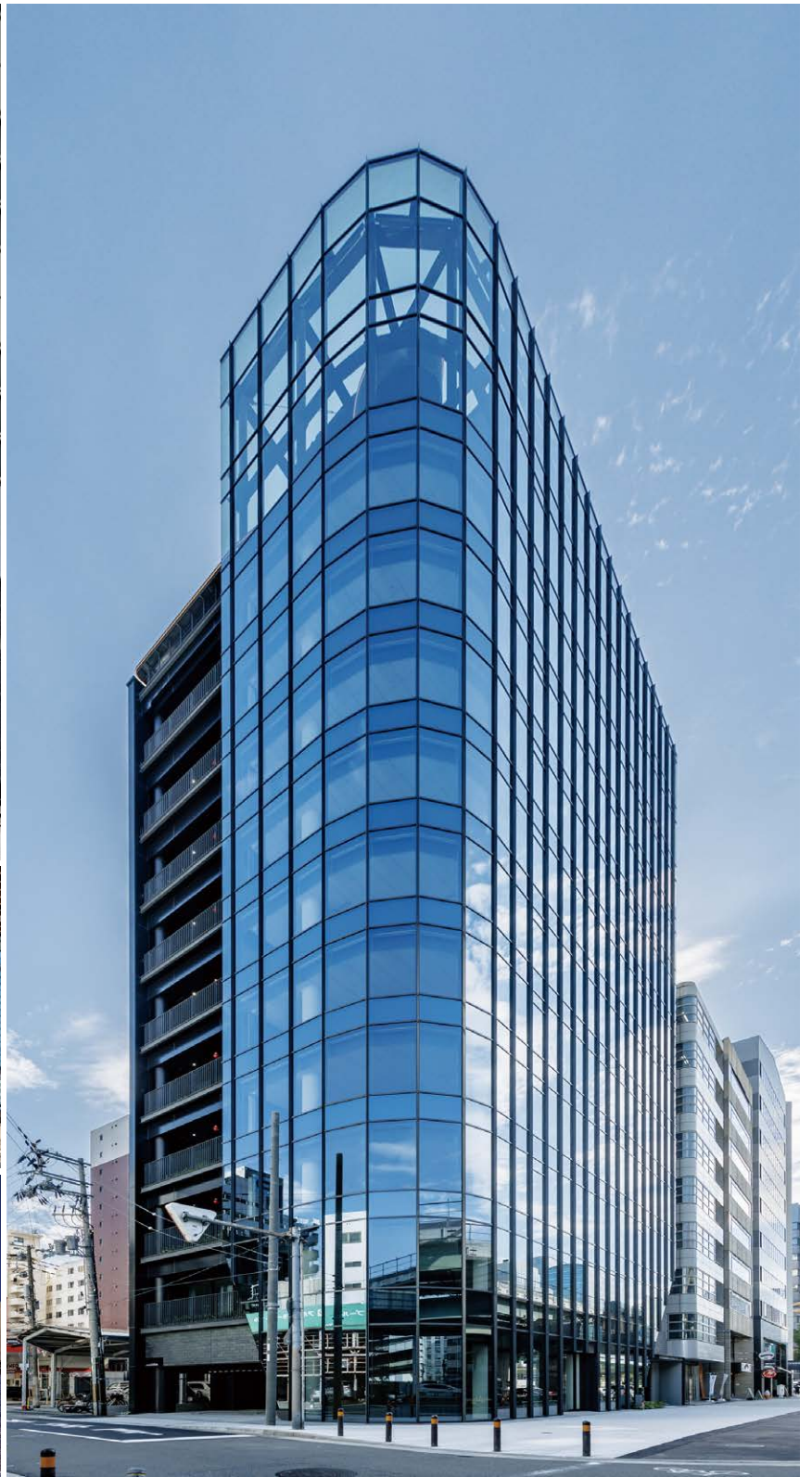
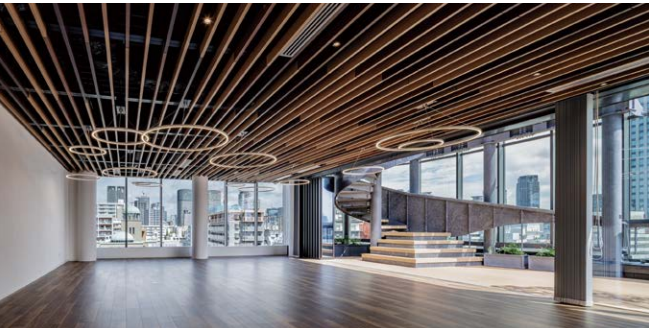
令和6年2月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



大阪市の東西に走る阪神高速道路（中央大通）に面したテナントオフィスビルの計画である。

計画地の阿波座では徳島の阿波商人が商いをしていた歴史があるとされ、主要産品であった阿波の藍を青いカーテンウォールで表現した。コーナーの柔らかな曲面や、裁断されたような斜めのカットラインが布らしさをより強調している。また各階事務室に面したバルコニーは、事業主の環境配慮に対する思想を汲み取り、立体的な緑のつながりを表現している。最上階には入居テナントが共有して利用できる会議室、シェアスペース、シンボルツリーのあるルーフテラスを設け、アフターコロナを意識した多様な働き方の実現を目指した。

所在地：大阪府大阪市
用途：事務所・店舗
竣工：2023.09
構造規模：S造一部SRC造
地下1階
地上11階
塔屋1階
敷地面積：457.11㎡
建築面積：357.57㎡
延床面積：3,846.51㎡
写真：エスエス大阪支店



敷地は堺市の仁徳天皇陵など、周辺に古墳が点在する地域にあり、けやき並木の大通りから一步入った所に位置する。計画は都市型住宅として、比較的密集した住宅地の中にある45坪の敷地に対し、プライバシーとセキュリティを確保し、心地良く暮らせるように3階建RC造の中庭を設けたセミコートハウスとした。車庫・階段や、各部屋を中庭に面して配し、リビング吹抜けの3階に宙に浮いた鉄骨造の茶室を設けた。内外が一体となった空間が広がり、何処からでも緑を眺められ、四季の移りかわりを感じることができる。完成した屋上庭園から、仁徳天皇陵など四方に広がった眺望が素晴らしい。特に、夕日に赤く染まった景色が美しい。

所在地：堺市堺区
用途：専用住宅
竣工：2023.12
構造規模：RC造3階建
敷地面積：148.77㎡
建築面積：88.58㎡
延床面積：215.54㎡
写真：福澤昭嘉



北欧デザイン好きな妻のために、設計者が親から譲り受けた築32年の木造古家を改修しました。小さな部屋がいくつかあったものを間仕切りと小屋組みを取り払って一つの空間にし、屋根を受けるために登り梁に架け替えました。耐震や断熱も大幅にグレードアップ。改修なので空間形状の制約が大きい代わりに素材に着目した設計を心掛けました。床や造作家具は広葉樹(カエデ、タモ、ナラ材)を使って柔らかい雰囲気を出し、壁は洋漆喰で左官の鍔色(こてむら)で遊びました。元々二世帯住宅だったことを活かして事務所と自宅の玄関を分け、内部でも行き来できるようにして設計者が働きやすい環境をつくるとともに、家庭内で公平を期するため妻専用の書斎(本箱と呼ぶ)もつくりました。

所在地：大阪府和泉市
用途：事務所兼用住宅
竣工：2020.09
構造規模：木造2階建て
敷地面積：129.72㎡
建築面積：80.19㎡
延床面積：151.47㎡
写真：松本朋也

2024年 「建築人」作品募集



審査委員長 磯 達雄

1963年 埼玉県生まれ
1988年 名古屋大学工学部建築学科卒業
日経BP社入社「日経アーキテクチュア」編集部勤務(～1999年)
2001年～ 桑沢デザイン研究所非常勤講師
2002年 フリックススタジオ共同主宰(～2020年)
2008年～ 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科非常勤講師
2020年～ Office Bunga共同主宰

Gallery 掲載要項

Galleryとは…

公益社団法人大阪府建築士会は、会誌『建築人』を会員サービスの一環として毎月発行しています。発行部数は約3,000部で会員のほか、官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。この『建築人』では、毎号「Gallery」というコーナーを設けており、皆様の建築作品を掲載しております。皆様の作品を本誌へ掲載しませんか？

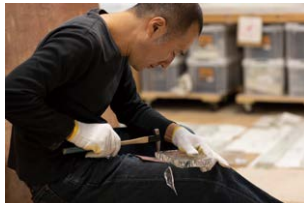
掲載作品は、同時に『建築人賞』候補に！ 『建築人賞』とは

Gallery掲載作品は自動的に大阪府建築士会が毎年表彰している『建築人賞』の候補となります。(毎年1月号～12月号掲載作品)

『建築人賞』は、これまで15回を数える賞で、個人の審査委員長により選考します。賞には、「建築人賞」「建築人賞新人賞」「建築人賞奨励賞」「建築人賞佳作」があり、建築主、設計者、施工者に賞状が贈られます。さらに「建築人賞」「建築人賞新人賞」の設計者の方には、記念品が授与されます。表彰は、5月に行われる建築士会の年次総会で表彰式を挙げており、受賞される建築主、設計者、施工者の方に参加していただいております。



記念盾 グラスアーティスト 佐久間 靖 作 (左：建築人賞 右：建築人賞新人賞)



佐久間 靖

1971年 大阪府高槻市生まれ
1996年 神戸学院大学 法学部 卒業
1997年 株式会社 ロクレーブルプロダクショングラスアーティスト 三浦啓子氏に師事
2016年 株式会社 Jiku Art Creation 作品制作に従事

■ 掲載費用

100,000円(1頁カラー)

*①：初回割引 80,000円

(設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合)

*②：若手初回割引 50,000円

(40歳以下で建築設計事務所を主宰されている方で*①を満たす方)

■ 掲載概要

建築主、設計者、施工者、協力会社、
所在地、用途、竣工年、構造規模、
敷地面積、建築面積、延べ床面積

■ 掲載記事内容

写真4点程度
説明文章：約300字程度

動静レポート

会長動静

- 1/ 4 在阪 15 団体新年交礼会
- 1/ 5 日刊建設工業新聞社年賀交歓会
- 1/ 8 総合資格学院合格祝賀会
- 1/ 9 大阪府収用委員会協議
- 1/10 泉南市長面談
- 1/11 泉佐野市長面談
- 1/12 エスケー化研新春交礼会
日本建築士会連合会教育事業委員会
全日本不動産協会新年賀詞交歓会
- 1/15 大阪府建団連新年賀詞交歓会
泉大津市長面談
- 1/16 大阪電業協会賀詞交歓会
- 1/17 日本建築士会連合会正副会長会議
- 1/18 大阪府収用委員会
日本建築士会連合会理事会
全日本不動産協会万博レセプション
- 1/19 大阪府収用委員会、運営会議
和歌山県建築士会会長意見交換
- 1/20 近畿建築祭
- 1/23 池田市長面談
大阪府建築士事務所協会交礼会
- 1/24 大阪都市景観建築賞表彰式
理事会

会長・役員による府内 43 市町村訪問

◎ 1/10 泉南市・山本優真市長と面談



徳岡副会長、岡本会長、山本市長、藤江理事、木村委員

◎ 1/11 泉佐野市・千代松大耕市長と面談



千代松市長、岡本会長、横田副会長、杉本委員

◎ 1/15 泉大津市・南出賢一市長と面談



岡本会長、南出市長、佐賀委員、石貫副会長

◎ 1/23 池田市・瀧澤智子市長と面談



阪田委員、岡本会長、瀧澤市長、上田副会長

1 月度 理事会報告

日時 1月24日(水) 16:00～18:00

場所 本会会議室

出席 理事 40/47 名 監事 2/2 名

(1) 入退会の承認

(人)	12月	入会	退会等
正会員	2,289	4	7
準会員	31	0	0
特準会員	24	1	0
賛助会員	141	2	0
計	2,485	7	7

(2) 会計報告

(円)	12月計	累計
収入	21,906,307	132,046,641
支出	11,722,180	93,245,418
差引	10,184,127	38,801,223

上表の当期経常増減明細を承認しました。

(3) 令和 6 年度予算案

前回の部門(委員会)から来年度の活動企画等をもとにした事業・行事の予算素案額を調整し、次年度予算を 12,000 万円の収支規模とすることを承認しました。

(4) CPD 制度表彰規程の一部改定
研修委員会に旧制度推進委員会を含む改組により、CPD 制度表彰規程の条文のうち、「制度推進委員会」を表彰の「選考会」の表記に変更し、運用指針も同様に表記の変更及び選考会の開催基準を構成員の過半から 2/3 の出席に改定することも含めて承認しました。

(5) 省エネ住宅・建築物の普及啓発に協力する協定

大阪府より在阪 4 団体(本会、大阪府建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会)と標記協定を締結し、普及啓発や脱炭素社会の実現に向けて取組む提案があり、これを承認しました。

なお、具体的な取組みは締結者間で協議のうえ施策を決定することとし、協定締結日は 3 月下旬の予定です。

枚方市災害対策本部訓練の見学会に参加

1月12日に枚方市災害対策本部訓練が実施され、枚方市と災害時避難所の応急危険度判定等の協定を結ぶ団体として、訓練の見学会に本会防災分科会委員が参加しました。午前中は災害発生直後を想定した訓練、午後は発生後 28 時間が経過した時点での訓練が実施されました。災害対策マニュアルに基き、被害状況の把握・避難所の開設・物資の供給・ライフラインの確保・帰宅困難者への対応等において、自衛隊・警察署・消防署と連携を取り迅速な対応を行う内容でした。

1月1日に能登半島地震が発生し多くの被害が出ている中で緊迫感のある訓練となり、本会として改めて協定内容を確認し、迅速かつ十分な準備を行います。



BIMコーディネーター・マネージャーの育成に関するシンポジウム

日時：令和5年12月12日(火)

会場：大阪府建築健康会館

参加者：会場参加17名+Web参加165名

BIMは「Building Information Modeling」の略称で、一般にBIMと言えば、三次元CADであるとか、3D-CADと言う言葉を想起される方が多いと思います。私は普段から2D-CADに触れて「竣工図」などを作成しているに過ぎず、BIMは少々縁遠い「設計ツール」でした。

このシンポジウムは公益社団法人日本建築士会連合会のBIMテキスト作成部会が作成するテキスト内容に準じており、テキスト作成に携わった各方面の執筆者が集結して大阪会場と東京会場の2回に亘って開催する発表会の場です。日本建築士会連合会の要請を受けて大阪府建築士会が協働してシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは挨拶とまとめを除いて、五つの内容が詳らかにされました。「建設DXとBIM」「設計三会のBIMの取組みと今後の動向」「ISO19650とBIMプロセスの理解」

「BIMマネージャーに必要なスキル」「維持管理にBIMを活用するために」と言う話です。特に私が大変興味深く聴いたのは「維持管理にBIMを活用するために」と言う話で、熊本大学大学院生活科学研究部大西康伸教授により紹介されました。この話の中では、教授を中心としたチームが公共建築物の維持管理データを作成するシステムを上げて、利用していると言う点であり、システムの中にはBIMデータが活用されている点、維持管理データを作成する建物管理者にはBIMの知識は必要なくスマートフォンの様な携帯端末を使用して簡単な入力だけで維持管理のためのデータが作成できるという点でした。

このシンポジウムで特筆すべきポイントは、BIMは単なる「設計ツール」ではなく、コーディネーターやマネージャーと呼ばれる建築士が介在しながら、BIMデータを建物の「新

築から解体まで」利用すると言う考え方であり、また、コーディネーターやマネージャーの育成は建築士の新たな職域、職能に繋がるという可能性を感じました。

来年度以降にはBIMテキスト作成部会が作成するテキストを中心に全国でBIMコーディネーター・マネージャー育成講座を開催することが計画されています。この講座には是非とも注視して欲しいと思います。



神保 勲(監事)



建築相談室から(80) 現地相談から

本会の建築相談は、無料の電話相談と有料の面接相談と現地相談があります。面接相談は、事務局で、平日午後4時～5時・1時間以内で行っており、昨年10月から1月に紹介しました。今月は、現地相談(日時は相談者と相談の上決定、半日で35,000円(税込))の記録からいくつかご紹介いたします。現地相談は原則として意見が偏らないように複数名の建築士で行くことが多く、公平を期すために電話で相談を受けた人は副担当にはなれますが主担当できないこととなっています。

ガレージ内の水漏れと白華

築55年の建物を約20年前に購入した相談者。建物の掘込みガレージ内の水漏れと白華が気になって相談してきました。購入時から白華はあったが最近特に酷くなって心配になった、壁からは天候と関係なく水漏れがある。心配なので、いまは駐車場としても

倉庫としても使っていない。問題ないか見に来てほしいとのことで現地相談になりました。相談員の見立てでは、駐車場はコンクリートブロック積みのものであり、地下水が滞留してブロックから水漏れしているようであるとのこと。また、水抜き穴はない。外からの防水が好ましいが、建物があって施工不可能であり、CB積みなので強度は期待できないことから、最低限水抜き穴を作って水がたまらないようにすることが最低限できるのではないかと記録されていました。

ブロック塀の緊急対応方法

通学路に面したブロック塀に亀裂が発生しており、建物は近々解体する予定だが、それまでの応急処置を知りたい、との相談で現地相談に行っています。相談員の記録では、当該塀は目視でわかるほど道路側に傾いており、鉄筋露出部分もあり、かつ鉄筋の腐食も激しいため、かなり危険な状態と判

断したとのこと。できるだけ早急な解体が求められる。そのため、急ぎ合板・ネットなどで道路側へ倒壊・落下しないような防止策をして、解体までの時間稼ぎをしてください、とアドバイスしたとのことでした。

中古マンション購入時の確認

JR駅前の7階建ての築30年の分譲マンションの一室(3LDK)の購入前にチェックをしてほしい、とのことで現地相談を行っています。現地で事前に不動産業者が行ったインスペクションを確認して、その書面では問題なしとの判断がされているとのこと。現地では、玄関枠まわり・窓枠まわりに目立つひび割れがあったとのこと。現地で不動産業者に補修を申し入れたが、共有部分(コンクリート部)で補修が難しいようです。室内では、建具にゆがみ、ずれが生じていたと記録されていましたが、それ以外は問題ないと判断しています。

橋本頼幸(建築相談委員会幹事)

Information

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)

- 耐震診断報告書の審査、評価
- 耐震補強計画書の審査、評価 等

(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。

令和5年度 大阪府ヘリテージマネージャー スキルアップ講習 第5回 (兼ステップアップ講習)

2/10 CPD4単位

本講習は、ヘリテージマネージャーのさらなるスキルアップを目的に行う講習会です。全6回の講座で保存活用、調査や修復技術などを学びます。

日時 2/10(土) 13:00~17:00

テーマ 「伴林氏神社で近代和風社殿の歴史と価値を考える」

講師：窪添正昭氏(窪添正昭建築設計事務所主宰)

「近代和風社殿での調査と所見作成-伴林氏神社を事例として-」

講師：木本久晴氏(㈱金剛組大阪本店設計部課長)

「四天王寺工匠の仕事-遺構や古図面を通じて-」

現地見学会および氏子のお話あり。

会場 伴林氏神社(藤井寺市)

定員 30名(予定 申込先着順)

受講料 建築士会会員及びヘリテージマネージャー(他府県含む)、本年度大阪府ヘリテージマネージャー育成講座受講生、学生1,000円
一般2,000円

令和5年度 監理技術者講習

(監理技術者以外の方も受講可能)

2/14、3/8 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験

豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講ください。

日程 2/14(水)、3/8(金)
時間 8:55~17:00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 各回30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

令和5年度 大阪府ヘリテージマネージャー スキルアップ講習 第6回 (兼ステップアップ講習)

2/24 CPD4単位(予定)

本講習は、ヘリテージマネージャーのさらなるスキルアップを目的に行う講習会です。全6回の講座で保存活用、調査や修復技術などを学びます。

日時 2/24(土) 13:00~17:00

テーマ 「失われつつある日本庭園の保存活用について」

講師：福原成雄氏(造園家・大阪芸術大学短期大学デザイン美術学科客員教授)

「煉瓦とはなにか-考古学的手法で読み解く煉瓦-」

講師：山岡邦章氏(岸和田市郷土文化課)

会場 岸和田市立自泉会館(岸和田市)

定員 30名(予定 申込先着順)

受講料 建築士会会員及びヘリテージマネージャー(他府県含む)、本年度大阪府ヘリテージマネージャー育成講座受講生、学生1,000円
一般2,000円

確認申請のプロ養成講座 初級編

2/28 CPD4単位(予定)

Point1

なかなか教えてもらえなかった確認申請。その基本を知るだけで、あなたは確認申請のプロと呼ばれる。そんな講座がスタート!

Point2

訂正項目が少なく、審査がしやすい申請図面が作成できれば建築着工も安心!

Point3

常に変化している確認申請の世界。住宅の省エネ適合義務化や4号特例の縮小、そして申請のデジタル化による電子申請などの最新事情がわかる。

★フォローアップ付き!

受講者の皆様には確認申請書の書き方等に関する質問に対応いたします。(1年間)
※今回参加できない方は後日受講できる、オンデマンド配信も予定しています。詳細は別途ご案内いたします。

日時 2/28(水) 13:00~17:30

会場 大阪府建築健康会館 6階ホール
(大阪市中央区和泉町2-1-11)
(「谷町四丁目」徒歩6分)

定員 70名(申込先着順)

受講料 建築士会会員6,000円
後援団体会員6,500円
一般7,000円

主催 近畿建築確認検査協会

共催 (公社)大阪府建築士会

既存住宅状況調査技術者講習

3/13 CPD2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士の方に認められる業務です。2020年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

▼更新講習(DVD)

日時 3/13(水) 13:30~16:50

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込17,000円
郵送申込17,600円

▼申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

令和5年度 建築士定期講習

3/29 CPD6単位

建築士法の規定により、建築士事務所所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和2年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼DVD講習

日程・会場・定員
3/29(金) 大阪府建築健康会館 90名
時間 9:15~17:00

受講料 12,980円(消費税含。事前振込)

申込方法

申込用紙を建築技術教育普及センターHPからダウンロードしてください。(令和2年度受講者には、同センターから直接申込書を郵送しています。)

ご記入後、大阪府建築士事務所協会事務局へ持参していただくか、簡易書留にて郵送してください。

受付場所(送付場所)

大阪府建築士事務所協会事務局

建築技術教育普及センターHPからWEB申込みも可能です。

<https://jaeictkosyuu.jp/jaeicteikikosyuu/>

(注)各回定員に達し次第、受付を終了します。

建築紛争セミナー8

あぶない結露

2/20 CPD2単位(予定)

本会は大阪弁護士会と共催で「建築紛争セミナー」を毎年開催しております。今回は、結露を原因とするトラブルが発生した場合の法的・建築技術的な対応について多角的に分析した上で、弁護士及び建築士が、実際に起こっているトラブルの事例を交えながら解説いたします。実務に役立つ内容ですので奮ってご参加ください。

日時 2/20(火) 18:00~20:00

会場 大阪弁護士会館 10階1001・1002
(大阪市北区西天満1-12-5)

定員 60名(定員に達し次第締切)

参加費 無料

中大規模木造設計セミナー

2/22 CPD4単位(予定)

「公共建築物の木材利用促進法」が2019年に施行され、低層の公共建築物などは原則として木造化、木質化することが義務付けられました。本セミナーでは、2015年に改正された文部科学省の「JIS A 3301木造校舎の構造設計標準」に基づき、流通材と住宅用の一般的プレカットを活用することで鉄骨と価格的に競合でき、意匠設計者であっても比較的容易に中大規模の木造建築物の設計が行える設計指針を解説いたします。この指針は、校舎をはじめ福祉施設、倉庫、事務所など一般用途の施設の設計も対象としています。なお、本セミナーはDVDによる講習となります。

▼「木造低コスト化」

日時 2/22(木) 13:30~17:20

※2020年2月28日開催『中規模木造設計セミナー「木造低コスト化」』と同内容となります。

会場 大阪府建築士会 東会議室

参加費 2,000円(テキスト代込み)

定員 40名(申込先着順)

令和5年度文化庁文化芸術振興費補助金 地域の文化財等の普及啓発のためのシンポジウム

3/9

北摂のまちの歴史を仙海氏から、歴史的建造物の見方や魅力を橋寺氏から、まち歩きの方法や楽しみ方を陸奥氏から伝えていただき、歴史的なまちなみと建造物の保存・継承・活用について考えてみませんか。

日時 3/9(土) 14:00~16:30

会場 豊中市立文化芸術センター 多目的室
豊中市曽根東町3-7-2

定員 130名

参加費 500円

登壇者 仙海義之氏 (公財)阪急文化財団 理事・館長

橋寺知子氏 関西大学環境都市工学部准教授

陸奥 賢氏 観光家 いわき時空 散歩プロデューサー他

Informationの詳細及び申込みは本会ホームページに掲載しています。

【大阪府建築士会】大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5階

http://www.aba-osakafu.or.jp/ メール info@aba-osakafu.or.jp TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

Skill UP Seminar

建築士会の「いま」を体験

3/12 CPD2単位(予定)

建築士会ってどんなところ?何をしているの?何ができる?どう活用するの?などの疑問を一挙に解決!

IT活用連続セミナーのアーカイブ放映を特別に行います。

ChatGPTなどITを活用しスキルアップに繋がってください。

また、大阪府建築士会で何が出来るのか実際の活動報告を各部門から行います。

お気軽にご参加いただければと思います。

日時 3/12(火) 18:00~21:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

参加費 会員・一般1,000円

新入会員・合格者500円

定員 限定50名(先着順)

茨木市文化・子育て複合施設

「おにクル」見学会+説明会

3/15 CPD3単位(予定)

2023年11月にオープンした茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」は、公募プロポーザルにより、竹中工務店・伊東豊雄建築設計事務所共同の設計、竹中工務店の施工によるものです。オープン2週間で来館者10万人を突破する大人気の公共施設について、設計者による建築・構造計画説明、さらに施工者から工事計画の説明とともに、竣工した施設見学会を開催します。

日時 3/15(金) 13:30~16:45

集合受付 13:15(時間厳守)

会場 茨木市文化・子育て複合施設 おにクル(茨木市駅前3-9-45)

JR京都線 茨木駅、阪急京都線 茨木市駅 いずれも下車 徒歩約10分)

定員 40名(申込先着順)

受講料 建築士会会員2,500円

後援団体会員3,500円

一般4,500円 学生1,000円

五條市の現代建築・古民家・史跡を巡る

市立五條文化博物館・地福寺・荒坂の窯跡群・藤岡家住宅・五條市新庁舎・桜井寺
3/23 CPD2単位(予定)

安藤忠雄氏設計の円筒形半地下式3階建て鉄筋コンクリート造の市立五條文化博物館では縄文・弥生土器や猫塚古墳より発掘された蒙古鉢型の肩庇付き甕の復原品等を見学します。金剛山・葛城山を仰ぎ文化庁認定日本遺産「葛城修験」の役行者草創七坊の一つであった地福寺で法起菩薩立像(秘仏)について説明頂きます。五條は八世紀初頭まで須恵器や瓦の生産地で、飛鳥・藤原京の寺院建立に瓦を供給していました。荒坂の窯跡群では保存された半地下式有段登窯跡を見学します。藤岡家住宅は江戸時代からの庄屋屋敷でホトトギス派の俳人として与謝野鉄幹・晶子とも交流のあった藤岡

長和の生誕地です。午後から五條市役所新庁舎と天誅組本陣が置かれた桜井寺の本堂(1967年再建 村野藤吾氏設計)、を見学します。

日時 3/23(土) 9:00~15:00

集合 8:35 JR和歌山線「五條」駅

北口ロータリー(時間厳守)

(集合後8:55発のバスで移動します)

定員 20名(申込先着順)

受講料 建築士会会員1,000円

一般1,500円

神戸ウォーカー

鈴木商店の栄光の残像と昭和レトロ建築を巡るチャンスは今しかない、ヘリテージの今後を考える。

4/20 CPD3単位(予定)

日本を代表する商社の基礎となる鈴木商店(明治7年創業)の本社跡や今なお残る昭和レトロの建築物を視察していきます。その中で兵庫県建築士会のヘリテージマネージャーでもある竹内明子さんから現事務所の松尾ビル(大正4年築で現役のエレベーターがある)のお話を頂く機会を持ちます。しかし、その松尾ビルも近接するマンションの計画により、現状の外観を見ることができなくなります。チャンスは今しかありません。是非ご参加ください。

また、懇親会には竹内明子さんが参加しますので、お楽しみに!

日時 4/20(土) 14:00~18:30

集合場所 神戸駅(JR)中央出口

13:30 集合・受付

定員 20名(定員に達し次第締切)

参加費 会員1,000円 一般2,000円

懇親会 場所 三宮 会費 5,000円(未定)

その他のお知らせ

カナダ林産業審議会主催

COFI 中・大規模木造建築設計セミナー

2/27 CPD3単位(予定)

本セミナーでは、特に4層の中・大規模木造建築物の設計にはどのような手段が考えられるのか、最良の工法の選択肢と選択方法などについて実際の事例をもとに解説します。中層木造に対する意匠設計の考え方や手掛ける理由、構造設計上の勘所、施工上の工夫や資材の取り扱いについても解説します。中・大規模木造建築に関心のある設計事務所、工務店の皆さま、ぜひ本セミナーにご参加いただき、今後の事業のヒントにしてください。

日時 2/27(火) 13:15~17:00

会場 マイドーム大阪

(大阪市中央区本町橋2-5)

内容 「中大規模木造建築—なぜ、意匠設計者は2x4を選んだか?」

小林 良氏(RYOPLUS代表取締役)

「事例から学んだ、設計・施工・工事管理(監理)の注意点」

白戸幸裕氏(榊梓川設計代表)

「中高層木造建築物の施工事例と建築材料」

中島喜八氏(榊三菱地所住宅加工センター営業開発部長)

受講料 3,000円

定員 50名

申込 カナダ林産業審議会

Tel.03-5401-0533 Fax.03-5401-0538

E-Mail: info@cofi.or.jp

https://cofi.or.jp/events/

日本建築学会主催

講習会「建築物の解体工事施工指針(鉄筋コンクリート造編・鉄骨造編)」

3/1

「建築物の解体工事施工指針(鉄筋コンクリート造編・鉄骨造編)」の発行に際して講習会を開催しますので、建築物の解体工事に携わる技術者各位におかれましては、ふるってご参加のほどお願いいたします。

日時 3/1(金) 13:30~16:50

場所 大阪科学技術センター 中ホール

定員 100名

参加料 日本建築学会会員9,000円

後援団体会員11,000円

上記以外14,000円

申込 日本建築学会近畿支部講習会「解体工事施工指針」係

Tel.06-6443-0538

https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productid=692177

大阪府建築士事務所協会主催

開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会

3/12

本研修会は、建築士事務所の管理・運営を適切に進める上で把握しておくべき重要事項を網羅した内容となっており、5年ごとの事務所登録の更新の機会に合わせて受講する(任意)ことで、資質の維持向上を図り、業務委託者の期待に応えるべく業務の適正化や建築物の質の向上等を目指すことを目的としています。

日時 3/12(火) 10:00~16:30

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

(大阪市中央区和泉町2-1-11)

定員 90名

受講対象者 建築士事務所の開設者及び管理建築士

受講の原則的区分

今年度受講対象者は令和5年建築士事務所登録更新事務所となっています。通知の届きました事務所については、令和5年建築士事務所登録更新事務所となり今年度の受講対象となっていますので、受講をお願いします。(念のため建築士事務所登録年月日をご確認ください。事務所登録の期限は5年間となっています。)

受講料 会員8,800円

後援団体会員13,200円

一般15,400円

申込 https://njr.payhub.jp/halls/2350

大阪府建築士事務所協会主催

まちあるきプロジェクト「ぶらり大阪“景観”ウォーク此花・大正区編」

3/30

普段見慣れている風景について景観を意識しながらもう一度眺め直し、ぶらぶらと歩きながら建築士や参加者の方々と意見を交換し

合い、今まであまり注目されていなかったものを含め、良好な景観を探しながら、大阪の受け継ぎたい、広げていきたい景観を見て歩く催しです。(今回は貸切バスでの移動あり)

日時 3/30(土) 10:45~17:00

集合 住之江公園南側(受付10:15より)

参加費 1,000円(コスモタワー展望台入場料・保険代)

定員 60名(先着順)

※事前申込みが必要です。当日の参加受付は行いません。

詳細 https://www.oaaf.or.jp/hotnews/event/2023walk/

申込 https://forms.gle/BuKQkCD77jsc4U6r9

本誌Galleryに皆様の建築作品を掲載しませんか?

本誌「建築人」は毎月約3,000部を発行し、本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。ぜひ本誌Galleryに皆様の建築作品を掲載しませんか。なお、掲載作品は本会が表彰する「建築人賞」の候補となります。掲載ご希望の方は、お気軽に事務局までご連絡ください。

●掲載記事 1頁カラー、写真4点程度(詳細は本誌Galleryページ参照)

●掲載費用 100,000円

※1 初回割引80,000円(設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合)

※2 若手初回割引50,000円(40歳以下かつ建築設計事務所を主宰され※1を満たす方)

●詳細・申込 事務局担当:母倉 e-mail: info@aba-osakafu.or.jp TEL:06-6947-1961

町営住宅の建替と長寿命化、今後に向けて



岬町 都市整備部 建築課 主幹 藤井健太

みんなで作る恵み豊かな温もりのまち
“みさき”

岬町は、淡路島を望んだ大阪湾ベイエリアの中で、美しい海と海岸線、豊かな緑に囲まれており、海の幸、山の幸が存分に堪能できるまちです。また、沿岸部には、漁村集落発祥の市街地がまとまって形成されており、人と人のつながりに懐かしさを感じるような、温もりのまちでもあります。

人口減少・少子高齢化の波

岬町の人口は、現在15,000人を下回っており、減少傾向が続いています。住民の2~3人に1人は65歳以上の高齢者、15歳未満の子供は10人に1人以下という状況で、大阪府内でも少子高齢化が進行している状況です。また、今後とも人口減少が進むことが想定されているため、移住・定住や関係人口の拡大に向けた様々な取組を進めています。

町営住宅を取り巻く状況

町営住宅においても、将来人口を見据えた適正配置が求められており、住宅施策全般の方針を示す「岬町住宅マスタープラン」と、町営住宅の建替や効率的な維持管理等の方針を示す「岬町営住宅長寿命化計画」を策定し、様々な住宅施策を計画的に進めてきました。

町営住宅においては、耐震性に問題のあった中層耐火公営住宅（緑ヶ丘住宅）をPFIの手法を用いて平成27（2015）・29（2017）年度に集約・建替事業を完了し、現在は、建築後40年を迎える低層耐火改良住宅（多奈川 小田平住宅・平野北住宅）の長寿命化型改善事業に着手しています。今後、限られた財源の中で、町営住宅を含めた多くの公共施設の適切な維持管理を行う必要があり、町営住宅の指定管理者制度等の導入についても検討を進めていく必要性を感じています。

また一方で、岬町を含む大阪南部の泉州地域においては、広域連携により公共施設の共通課題を解決するため、「泉州地域

FM連絡協議会」が立ち上げられ、公営住宅についても広域連携によるコンセッションなどを検討していく予定となっています。

PFIによる町営住宅建替事業

耐震性に問題のあった中層耐火公営住宅（緑ヶ丘住宅）について、設備水準の向上、住宅に困窮する高齢単身世帯の増加を見据えた住戸プランの充実、民間活力導入などの実施方針を定め、耐用年限を超過した木造公営住宅についても廃止を進めることとし、PFIの手法を用いて、統合建替事業を行いました。

既存住宅4・5階建て9棟208戸の解体撤去等を行い、新たに8階建て3棟126戸を整備し、入居者の移転（引っ越し）支援も行うものとなりました。民間事業者が、町有地において住宅等を整備し、整備後、町にその所有権を移転するいわゆるBT（Build Transfer）方式により事業を実施しました。民間事業者からは、敷地の中心に、にぎわいや防災機能を備えたセンターパークと集会所を整備するよう提案があり、駐車場、駐輪場、高齢者向け電動車両置場なども併設した施設として、平成29年度に建替事業を完了しました。

今では、夕方になるとセンターパークには散歩をするお年寄りや放課後に元気に遊ぶ子供たちがふれあうなど、ほほ笑ましい光景が見られます。

町営住宅の長寿命化型改善事業

建築後40年を迎える低層耐火改良住宅については、長寿命化型の改善手法を取り入れることで、町が支出する金額を中長期的に縮減できると判断し、屋根や外壁を中心にリニューアルする実施方針を定め、68棟136戸を4工区に分割し、現在は1工区目に着手しているところです。

既設のアスファルトシングル葺きの屋根をガルバリウム鋼板葺き（カバー工法）に、既設のリシン吹付の外壁をアクリルタイル（防水型複層塗材E）でリニューアルしています。

既設外壁塗材には、アスベストが含有されており除去が必要となっていることや、昨今の施工コスト増もあり、事業費は増加傾向となっているものの、国の交付金を活用しながら、来年度以降も引き続き、事業を進めていく予定としております。工事中は、入居者の方々にご負担をかけているところですが、工事が終わる頃には「屋根や外壁がきれいになった」など、うれしい声もいただいております。励みになっているところです。

町営住宅の今後に向けて

結婚・出産・子育てのタイミングで、他市町に引っ越して住まいを構えると、その地域でコミュニティができてしまい、もう一度引っ越しすることが難しくなり、その地域に定住する傾向があると感じています。岬町は住みよい魅力的なまちですが、民間賃貸住宅が少なく、岬町に住んでみたいと思っても、なかなか住まい（住宅）が見つからないという声も聞こえてきます。

一方で、岬町では、人口減少に伴って、町営住宅の需要も減少し、空室が目立っていくものと想定しています。このため、本来は低額所得者層しか入居できない町営住宅を収入条件などの入居資格を緩和し、中堅所得者層が入居できるよう「みなし特定公共賃貸住宅」として活用することを検討するなど、今後とも町営住宅を活用し、様々な住宅施策を検討していく予定としております。

最後に

少子高齢化の進行、情報通信技術の発展によるライフスタイルや価値観の多様化など、住宅や人々の暮らしを取り巻く環境は大きく変化しています。町営住宅をはじめとした住宅セーフティネット施策以外にも、空家や地域コミュニティの維持など、課題は山積しています。できることはなんでもやるという気概を持って、これからも仕事に精進する所存で、また皆様とどこかで仕事を一緒できることを楽しみにしています。

景観資源「ビュースポットおおさか」の取組

大阪府 都市整備部 住宅建築局 建築環境課 技師 前田世斗



大阪の景観と言えば何を思い浮かべるでしょうか。ド派手な巨大看板でしょうか。

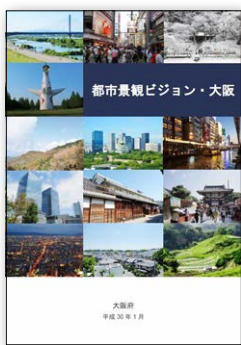
百舌鳥・古市古墳群といった世界遺産を抱え、天下の台所、商人のまちとして悠久の歴史を刻んできた大阪の景観は、都心部の大都市景観のみならず、少し離れた郊外地域の田園風景までも併せ持つ非常に多彩な魅力にあふれたものとなっています。

また、古代の歴史資源から近代的な景観資源など多種多様なものが積み重なりあうコラージュ都市としての景観を形成しています。歴史や自然が育む魅力的な景観がたくさんあるのです。

リレー形式で繋がれてきた襷のアンカーとして、大阪府からは、景観資源「ビュースポットおおさか」の取組をご紹介します。

『都市景観ビジョン・大阪』

大阪府の景観特性を踏まえ、広域的な視点と地域的な視点からの景観形成の方向性を示すものとして、平成30年に「都市景観ビジョン・大阪」を策定しました。



都市景観ビジョン・大阪 (平成30年1月)

ビジョンでは、基本目標『きらめく世界都市・大阪の実現』を目指して、景観特性に応じた取組方針等を示すとともに、市町村や民間団体との連携による景観まちづくりの推進体制などを明確にしています。

また、具体的な取組として、人々が景観に対して関心を持ち気軽に景観づくりに参画できるよう、「ビュースポット(視点場)の発掘と情報発信」が位置付けられました。

『ビュースポットおおさか』とは

一般的に視点場を意味する「ビュースポット」

ですが、本府では、景観を美しく眺めることのできる場所、自然などの眺めの良い場所だけでなく、旧街道や宿場町などの歴史的・文化的景観や美しい街並みを眺めることのできる場所と定義づけています。

大阪の代表的な景観資源としては、大阪城や道頓堀のまちなみ、淀川などの水辺景観、大規模インフラなどが挙げられますが、この他にも知られざる景観資源が多くあります。このような景観資源を府民自らが発掘し、大阪府が積極的に発信することで、景観に対する府民意識や愛着、シビックプライドを醸成し、ひいては府域全体の良好な景観形成につなげていくことが狙いです。

『ビュースポットおおさか』のご紹介

令和元年の第1回募集以降、計3回にわたる募集を経て、令和6年2月現在、府内80か所を「ビュースポットおおさか」として選定しています。

本稿では、紙面の都合上、3か所をご紹介します。府内全80か所の情報を知りたい場合は、本府のホームページでご確認ください。



「大阪都心の高層建築群」を眺める 梅田スカイビル「空中庭園」(大阪市北区)



ため池に浮かぶ読書の森を眺める歩道(松原市)



御領水路と御領菅原神社を眺める 御領橋周辺(大東市)

大阪府公式 景観インスタグラム

美しい景観を眺めることのできる場所=絶好の“映える”写真撮影スポットでもありますので、現在、本府では、SNS(インスタグラム)を活用した景観魅力の発信にも力を入れています。



インスタグラム投稿画像

右のQRコードからアクセスし、インスタグラムをフォローしていただけたら幸いです。日々更新される大阪の景観写真の数々をご覧ください。



OSAKA_LANDSCAPE

今後の取組について

2025年、いよいよ大阪・関西万博が開催されます。大阪の魅力を全世界に発信するチャンスですので、景観の魅力についても積極的にPRしていきます。

まずは2024年3月に『ビュースポットおおさか』を現在の80か所から100か所まで拡大する予定です。

4月以降も、官民連携、官官連携のもと、ビュースポットおおさかを訪れていただくための企画を検討中です。ご期待ください。

自然に抱かれた森の中の音楽堂

八ヶ岳高原音楽堂 一九八八年

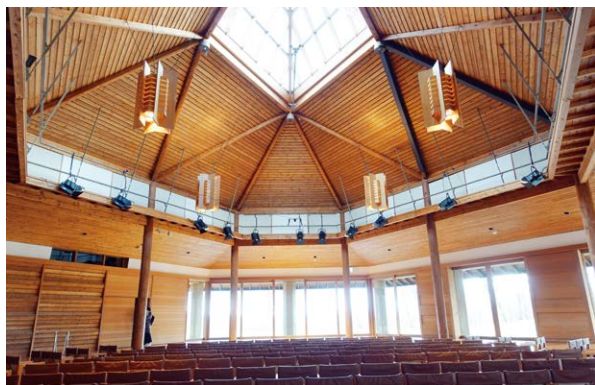
文・写真 松隈 洋「神奈川大学建築学部教授」

二〇二三年十一月二〇日、長野県南佐久郡南牧村の八ヶ岳高原音楽堂を初めて訪ねた。十二月二日から東京のギャラリー・エー・クワッドで開催される建築展「吉村順三の眼―アメリカと日本」のための写真撮影の立合いを兼ねた同僚の教員と模型制作を担当する大学院生ら十数名での現地見学だった。新宿から中央本線の特急あずさ号に乗って二時間弱、小淵沢で小海線に乗り換えて約三〇分、最寄り駅の野辺山に到着する。駅前から送迎バス

で約十五分、白い幹と枝のダケカンバや唐松などの針葉樹林の先に、大きな屋根に覆われた音楽堂が見えてくる。ここは、標高二八九九mの赤岳を最高峰に南北約三〇kmに及ぶ八ヶ岳連峰の南東に位置し、東に秩父連山、南に遠く富士山を望む標高約一五〇〇mの高原である。すでに冬枯れの寒風の吹く季節だったが、刻々と雲が流れる中、時おり差し陽の光を受けて、山並みと呼応するような屋根の連なりとガラスのトップライトが輝き、美しい



西側から見る外観全景。背景に見えるのは秩父連山。



音楽堂の内観。舞台の先には富士山が望める。

シルエットを見せていた。吉村の教え子でレーモンド事務所に学んだランドスケープ・アーキテクトの内藤恒方（一九三四〜二〇二〇年）との共同によって、八ヶ岳連峰を望む雄大な風景と周囲の自然に溶け込むように構想されたのだろう。六角形を基調とする巧みな平面計画により、ホワイエを中心に、左右に、二五〇から三〇〇人を収容するホール棟と、楽屋、クローク、パントリー、化粧室などからなるサービス棟が、ごく自然に振り分けられている。さらに、流れるように続く室内と開放的な開口部、外周を取り囲む軒先の回廊、そして、全体を大きく包み込む地産材の唐松を用いた木造小屋組の大屋根という明快な構成によって、森の中のサロン・コンサートに相応しい、柔らかく透明感あふれる音楽のための空間が実現している。この音楽堂は、二〇世紀最高のピアニストの一人と称されたロシアのスヴァトスラフ・リヒテル（一九一五〜一九七七年）と作曲家の武満徹（一九三〇〜一九六六年）をアドバイザーに迎えて、一九八六年六月から吉村順三（一九〇八〜一九七七年）の設計が進められ、一九八八年七月に竣工する。そして、同年九月二日、第一回八ヶ岳高原音楽祭のオープニングを、リヒテル演奏のモーツァルトのピアノソナタで飾っている。それ以来、一九九〇、九二、九四年の彼の監修による演奏会をはじめ、ダン・タイ・ソン、スタニスラフ・ブーニン、キース・ジャレット、ミッシェル・マイスキから、多くの著名な音楽家によるコンサートが催されてきた。実は、私事ながら、遠い昔の学生時代、リヒテルの録音したバッハの平均律

クラヴィアア曲集の名盤レコードを擦り切れるほど愛聴していた。そのため、一九八〇年の上京後、彼の来日公演を東京で二度聴いており、ステージを暗くして譜面だけにスポットライトを当てる独特の演奏スタイルと、天から降ってくる神がかりのようなピアノニッシモの響きに感激した思い出がある。しかも、そのレコードを事務所に持参して、前川國男に所長室で聴いてもらい、「いいね」と気に入ってもらっていたのだ。こうして、時を経て今回の現地見学は、吉村が一九八六年六月から設計を始めたこと知り、なおさら感慨深いものとなった。というのも、吉村は、レーモンド事務所の同僚として出会い、戦前から長く親交のあった前川を敬愛していたのだろう。おりしも、前川國男がその同じ六月の二六日に八十一歳でこの世を去り、二九日に目黒の自宅で執り行われた通夜の際、誘導係だった筆者は、玄関先で涙をこらえて仁王立ちする吉村の姿を目撃していたのである。吉村自身、五年後の一九九一年、八ヶ岳高原音楽堂を表紙に第二作品集を出版した際、次のように書き留めていた。

「（一九八〇年）私は病に倒れて、しばらくの間、療養生活を余儀なくされました。（中略）この第二作品集の期間は私にとって試練の期間でしたが、その間、様々な作品ができていたことを思うと、真に感慨深いものがあります。」（『吉村順三作品集一九七八〜一九九一』新建築社）

この音楽堂は、晩年の吉村にとって大切なプロジェクトだったのである。また、同じ作品集には、次のような

言葉も記されている。

「昔に比べて、建築のスケールが随分と大きくなりました。（中略）しかし、（中略）私の設計の基本は、今も昔も変わってはいません。デザインのポイントには、ゆとりのある生活空間をつくることにあります。図面で見えれば、断面での人の動作や休息、目や体など人の動きを重視しています。かねがね私が思っていることですが、いまの日本の建築は造形にとらわれ過ぎていないか、ということ。物質的には豊かになっても、精神的には少しも豊かになっていないように思えます。ゆとりとむだ、新しさと珍しさを、はき違えているのではないのでしょうか。人間らしい豊かな生活のための、バランスのよくとれた簡潔で美しいプロポーションこそデザインの基本でなければなりません。」

ここに記された変わらない基本姿勢こそ、この音楽堂に結実したものなのだと思う。吉村は、前川の設計した神奈川県立音楽堂や東京文化会館と一緒に演奏を楽しみ、逆に、前川は、吉村の手がけたソルフェージュ・スクールや青山タワービルのホールに招かれていた。そのことを思い返すとき、せめてあと数年間、前川が長生きしていたら、間違いなく、八ヶ岳高原音楽堂のオープニングで、吉村と前川は、仲良く並んで座り、リヒテルのピアノ演奏を堪能していたに違いない。そんなことを夢想しながら、あらためて、吉村順三の手がけた音楽空間に込められた精神的な豊かさを見つめ直すことが必要なのではないか、と八ヶ岳高原音楽堂の前に感じずにはいらなかった。

水を愛することは、 地球を愛すること。

人類あるかぎり水は必要である。

SANEIは1954年の創業以来、
その理念を胸に水と暮らしの理想の姿を
ご提案してまいりました。

人はこの世に生を受けたその日から、
一日として水に触れない日はありません。

自然から暮らしへと続く大きな水循環の中で、
人と水とのかけがえのない出会いの瞬間を、
心地よく素敵なものにするために。

そして「水の惑星」と呼ばれる地球の未来のために。

SANEIは持続可能な社会の実現に向け、
環境に配慮した商品開発や企業活動を
続けてまいります。

ALWAYS WITH JOY
SANEI



南側外観。外を引き込むスロープ。



2階LDKより動線空間を見る。上下階に心地良い環境を提供する。